

# ながった幼稚園様バードピア認定地

# 野鳥調査報告

2023.4.1

太平電機株式会社  
ECOひいきプロジェクト  
代表取締役社長  
樋口公平



ヒヨドリ 桜で吸蜜

地方創生 SDGs  
官民連携  
プラットフォーム  
私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



この資料はCO2を発生しない電力で作製しました。



エコアクション21  
認証・登録番号0000139



太平電機株式会社 ECOひいきプロジェクト

# 調査時使用したもの

- 自動車1台 . . . 現地訪問用
- 望遠鏡 . . . 20倍
- 三脚 . . .
- カメラ . . . 500mm一眼レフ
- 双眼鏡 . . . 8倍
- 記録用紙
- 筆記具、携帯電話、飲み物持参。





# 裏山エリアの野鳥 ラインセンサス調査

- 【日時】 2023.4.1 8:32～8:57 25分
- 【場所】 駐車場→裏山登頂→頂上。同じ道を引き返すコース。
- 【コース】 駐車場→登り口→きり坂→ち坂→さくら坂→もみじ坂→すぎ坂→どんぐり広場(山頂)→同一コースを下る(下りは上りに記録ない種のみ)
- 【調査法】 ラインセンサス法→時速1キロ程度の徒歩、前左右上空に出現する野鳥の姿と声を確認し種類と数を記録。
- 【状況】 雑木林の木々が芽吹き、桜が満開の時期であった





# ビオトープエリア 定点調査

- エリア内に立ち、いる野鳥、飛来する野鳥の種類、行動を声、姿を確認し記録した。
- 2023.4.1 9:02～10:02 60分 入り口北側に立ち調査。(数は記録しない)
- 双眼鏡、望遠鏡、カメラを使用し野鳥の種類と行動を調査
- 餌台の給餌は終了していた。



調査定点

# 調査結果 一覧表

日付	鳥類目録7版順		2023.4.01						
累計種数	科	園敷地内確認種	裏山エリア	裏山センサス確認数	ビオトープエリア	留/夏/冬	主な利用	環境省RL	神奈川県RL
1	ハト科	キジバト	○	1	○	留鳥	林		
3	キツツキ科	コゲラ	○	1		留鳥	林		
4	カラス科	ハシボソガラス	○	1	○	留鳥	林		
5	カラス科	ハシブトガラス	○	1	○	留鳥	住宅地		
6	シジュウカラ科	シジュウカラ	○	4	○	留鳥	林内/餌台		
7	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	9	○	留鳥旅鳥	林		
8	ウグイス科	ウグイス	○	1	○	留鳥	林床		
9	エナガ科	エナガ	○	2		留鳥	林		
10	メジロ科	メジロ	○	13	○	留鳥	林		
合計	8	9	9	32	7				

【考察】 裏山9種 32羽 ビオトープ域7種類

全域合計9種類

# 調査後の報告 裏山のラインセンサス調査考察

## 【考察】

- 裏山では前回同種数**9種**が確認できた。これは**過去最高種数**
- **全種合計32羽**で、前回同数。これも**過去最高記録羽数**
- **前回初記録のエナガ、コゲラ**は今回も**確認**。いずれも雑木林を主な環境とする種で定着していることが分かる。
- 春になり繁殖期となったため、囀る種が多く確認できた。(ウグイス、キジバト、シジュウカラ)
- **エナガ**は前回に続き確認された。2羽で確認されたこと、また、尾羽が湾曲したエナガを確認した事前情報から、繁殖している可能性がある。
- 桜が満開となり、吸蜜が見られた(ヒヨドリ、メジロ)
- 木々が芽吹き、新芽の採食が見られた(ヒヨドリ、エナガ)
- 2月に見られた混群は解消され、確認できなかった。

この雑木林では、留鳥が春に桜の吸蜜や新芽の採食などで利用し、繁殖活動が行われている。



# 調査後の報告 ビオトープエリア定点調査考察

- ビオトープ域では合計7種が確認できた。
- 初記録はなし
- **ウグイス**は12月、2月に続けて確認。前回までは地鳴きだが、今回はさえずりをしていました。繁殖の可能性がある。
- シジュウカラは確認されたが、餌台の給餌が終了しているためその利用はなかった。
- ビオトープを利用(水飲み、水浴び)する野鳥は見られなかった。
- **ヒヨドリ**がサクラの吸蜜、木々の新芽の採食をしていた。数羽が調査時間中常にサクラに来ていた。
- 冬鳥、夏鳥は確認できず、すべて留鳥が記録された。
- 巣箱が掛けられていた。囀るシジュウカラが確認できているため、当エリアが繁殖期の縄張りとなっている。巣箱に入る可能性がある。



## 【シジュウカラ用巣箱】

ヒマワリの餌台給餌でシジュウカラの越冬を支え、春の繁殖時期には少なくなった樹洞の代替えとして巣箱の設置で命をつなぐ支援をしています。

# 種ごとの解説 ヒヨドリ

- 一年中生息する「留鳥」
- 以前は渡り鳥で、冬に暖地に渡る習性を残しています。
- 調査では12月に裏山で群れで休むヒヨドリ、上空を西に飛ぶヒヨドリの群れが確認されています。長津田幼稚園が渡りのコースの一部となっていて、休息の場所の役割を果たしている可能性があります。
- 今回は森の中で新芽の採食や、桜の吸蜜で花粉をくちばしにつけているところの確認できました。
- ヒヨドリは冬季から春にかけて餌が少ない時期に、畑の葉物野菜を食べることがあり、食害が問題になっています。
- 冬から春にかけてツバキやサクラなどの花の吸蜜をすることで、昆虫が少ない時期にヒヨドリが受粉をしています。鳥に受粉を託す花を「鳥媒花」と呼び野鳥と植物が相互に支えあっています。

